学校番号	３０４

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	NEXT　数学Ｃ（数研出版）						
副教材等	新課程　NEXT 数学シリーズ 対応　CONNECT　数学 III＋C〔複素数平面，式と曲線〕（数研出版） ［大学入試最頻出 42］　ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ・C〔複素数平面，式と曲線〕　受験編（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業の前に家庭での予習を勧めます。間違えても構いませんから例や例題を解いてください。
問題を解いてみると理解が進みます。また分からないところが鮮明になります。
授業には分からないところや疑問点を聞き取ろうという姿勢で参加しましょう。
・授業での質問は大いにしなさい。質問することによって自分の理解が深くなるものです。
・問題を解いて、黒板で説明をしたり、クラスメートの質問に答えてもらったりする機会を増やしたいと思います。互いが共鳴することによりクラス全体の理解が深まります。
・授業用と問題集用のノートを別々に作りなさい。
授業で習った範囲の問題集は家庭で解きなさい。解いたら採点をして自分の間違えたポイントを明確にしなさい。もう一度解くことも有効です。間違えた問題をテスト前にチェックすることも有効です。
・問題集用のノートは定期的に提出してもらいます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】
数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し,演算法則やその図形的な意味を考察する力,図形や図形の構造に着目し,それらの性質を統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度,粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1節　ベクトルとその演算	1.ベクトル	a：有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し，図の中から探すことができる。 c：日常の量で，向きと大きさをもつものがあることに興味をもち，それをベクトルで表現しようとする。	小テスト 考査		レポート 振り返り
		2.ベクトルの演算	a：ベクトルの和の定義を理解し，それを図示できる。ベクトルの和の計算ができる。ベクトルの差の定義を理解し，それを図示できる。ベクトルの差の計算ができる。ベクトルの実数倍の定義を理解し，式で表現できる。ベクトルの実数倍の性質をもとに，ベクトルの演算ができる。ベクトルの平行条件を理解し，平行なベクトルを求めることができる。平面上のベクトルが 2 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることを理解し，具体的なベクトルを 2 つのベクトルで表すことができる。 b：ベクトルの加法の性質が成り立つことを，加法の定義を用いて説明することができる。ベクトルの減法の性質が成り立つことを，減法の定義を用いて説明することができる。ベクトルの和，差，実数倍の定義をもとに，それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 c：1 つのベクトルに平行な単位ベクトルを求める公式について，それが正しいことを，定義や既習の計算法則を用いて確認しようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

		3.ベクトルの成分	a:ベクトルの成分表示の仕組みを理解し，具体的なベクトルを成分表示できる。また，そのベクトルの大きさを求めることができる。成分表示されたベクトルの計算ができる。点の座標とベクトルの成分の関係を理解し，2 点で定められるベクトルを成分表示できる。 b: ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し，成分を定めることができる。ベクトルの成分と点の座標を明確に区別し，正しく言葉で表現できる。点の座標とベクトルの成分の関係を，座標平面上の図形の問題に活用できる。 c: 成分表示されたベクトルの演算法則を，ベクトルの演算法則から導き出そうとする。座標平面上の図形の問題について，ベクトルを用いる解法と用いない解法を比較し，条件の過不足を検討することで，それぞれの解法の特徴を検討しようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		4.ベクトルの内積	a: 内積が実数であることを理解している。ベクトルの内積の定義を理解し，内積を求めることができる。成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。成分表示された 2 つのベクトルのなす角を，内積を用いて求めることができる。ベクトルの垂直条件を理解し，成分を定めることができる。三角形の面積がベクトルを用いて求められることを理解し，座標平面上の三角形の面積を求めることができる。 b: ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。内積の性質を用いて，等式を証明したり，ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 c: 内積の性質を，既習の知識を用いて証明しようとする。ベクトルの内積の計算をする際，1 つ 1 つの計算で用いている性質を意識し，正しく適用できているか確かめようとする姿勢がある。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

	第2節　ベクトルと平面図形	5.位置ベクトル	a: 点の位置を，基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。内分点，外分点の位置ベクトルを求めることができる。 b: 位置ベクトルを活用して，図形の性質が考察できる。図形の問題において，求めた位置ベクトルの意味を解釈し，説明することができる。 c: 線分 AB を m : n に内分する点の位置ベクトルを求める過程を参考に，m : n に外分する点の位置ベクトルを，m と n の大小関係に関わらず自ら求めようとする。三角形の 3 本の中線が 1 点で交わることが，重心の位置ベクトルを求める過程で証明できることに興味をもち，それを確かめようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		6.ベクトルの図形への応用	b: 位置ベクトルを活用して，3 点が一直線上にあることを証明できる。位置ベクトルの一意性を活用して，線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。ベクトルの内積を活用して，図形の性質を証明できる。 c: 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。		小テスト 考査	レポート 振り返り
		7.図形のベクトルによる表示	a: 位置ベクトルがある条件を満たすような点全体の集合がある図形となることを理解している。直線のベクトル方程式について，媒介変数を用いて表すことができる。通る 1 点と法線ベクトルから直線が定まることを理解し，具体的に直線の方程式を求めることができる。円のベクトル方程式から，その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。 b: 直線の方向ベクトルについて，その向きや大きさと媒介変数の値の関係を考察できる。点が線分 AB 上に存在する条件を活用して，点 P の存在範囲を求めることができる。 c: 図形のベクトル方程式について，点の座標(x, y)についての方程式と関連させて考察し，それらの共通点などを見出そうとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
	第2章　空間のベクトル	1.空間の点	a: 空間における点の表し方を理解し，座標平面や座標軸，原点に関して対称な点の座標を求めることができる。空間の点と原点との距離が求められるようになる。 c: 座標空間における点の表し方を，座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。	小テスト 考査		レポート 振り返り

		2.空間のベクトル	a: 平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは，空間においても同様に成り立つことを理解している。空間図形の中で，等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。空間図形において，ベクトルの和や差を考えることができる。空間のベクトルが 3 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることを理解し，具体的なベクトルを 3 つのベクトルで表すことができる。 b: 空間のベクトルが 3 つのベクトルの線形和で 1 通りに表される理由について，平面上のベクトルが 2 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることから説明できる。 c: 平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから，ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		3.ベクトルの成分	a: ベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し，ベクトルが等しくなるように成分を定めたり，成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 c: 空間のベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。	小テスト 考査		レポート 振り返り
		4.ベクトルの内積	a:空間のベクトルの内積の定義が平面上のベクトルの内積の定義と同じであることを理解し，空間のベクトルの内積を求めることができる。成分表示された 2 つのベクトルのなす角を，内積を用いて求めることができる。平面上のベクトルの内積の性質は，空間においても同様に成り立つことを理解している。 b: 座標空間の 3 点で定まる角の大きさを，ベクトルを活用して求めることができる。ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 c: 平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから，内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

		5.ベクトルの図形への応用	a: 位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 b: 位置ベクトルを活用して，図形の性質が考察できる。位置ベクトルを活用して，空間の 3 点が一直線上にあることを証明できる。空間の 4 点が同じ平面上にある条件を理解し，点の座標を定めることができる。位置ベクトルの一意性を活用して，直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。ベクトルの内積を活用して，図形の性質を証明できる。 c: 様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		6.座標空間における図形	a: 座標空間における 2 点間の距離や線分の内分点，外分点の座標，三角形の重心の座標が求められる。座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。 b: x＝a などの方程式が座標軸に垂直な平面を表す理由を正しく理解し，座標軸に平行な直線の方程式について考察できる。条件から中心と半径を考え，球面の方程式を求めることができる。球面と平面が交わってできる図形を，連立方程式の解の集合として考察できる。 c: 座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し，座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

2学期	第3章　複素数平面	1.複素数平面	a：1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し，点を複素数平面上に表すことができる。複素数の和，差を複素数平面上に図示できる。複素数の実数倍が複素数平面上で何を意味するか理解し，3点が1直線上にあるように複素数を定めることができる。複素数の絶対値の定義を理解し，複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。共役複素数の性質を理解し，用いることができる。係数が実数であるn次方程式について，解の1つが虚数ならばその共役複素数も解であることを理解している。 b：複素数の絶対値の定義から，実数の絶対値も統一的に捉えることができる。複素数平面上で共役複素数が何を表すか理解し，対称な点について説明できる。 c：複素数平面の定義から，複素数の和，差や実数倍が複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。複素数 z が実数や純虚数になる条件について，様々な方法で考察しようとする。互いに共役な複素数の和が実数であることについて，既習の内容を用いて証明しようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		2.複素数の極形式	a：複素数の極形式について理解し，複素数を極形式で表すことができる。極形式で表された複素数の積と商を求めることができる。複素数の積や商について，絶対値と偏角だけに注目した性質を理解している。複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。 b：共役複素数や−z などを極形式でどのように表すか，その定義から考察できる。1つの複素数を極形式と a＋bi の形の2通りに表して，積について考察することができる。複素数の積の図形的な意味を活用して，正三角形の頂点となる複素数を求めることができる。 c：複素数が a＋bi とは別の形で表せることに興味をもち，それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

		3．ド・モアブルの定理	a:ド・モアブルの定理を理解し，複素数の n 乗を求めることができる。1 の n 乗根を求めることができる。 b: 複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを，極形式を用いて考察できる。1 の n 乗根の求め方をもとに，一般の複素数の n 乗根を求めることができる。 c: 複素数の積の図形的な意味から，ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。複素数の n 乗根を複素数平面上で図示し，その特徴を見出そうとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		4．複素数と図形	a: 線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。複素数の方程式について，その意味を考えたり計算したりすることで，表す図形を求めることができる。原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。複素数平面上で 3 点が一直線上にある条件や 2 直線が垂直に交わる条件を理解し，利用することができる。 b: 線分の内分点を表す複素数を活用して，三角形の重心を表す複素数を求めることができる。点 z と連動して動く点 w が描く図形について，その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。半直線のなす角について，原点以外の点を中心とする回転と統一的に理解している。複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して，三角形の形状について考察できる。 c: 図形の問題を，複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。複素数の方程式が表す図形について，複素数を x＋yi とおくなどして，複数の方法で考察しようとする。複素数平面上の三角形の形状が 1 つの複素数で決定されることに興味をもち，三角形の形状を調べようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

	第1節　2次曲線		a:放物線が，焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。放物線の標準形について理解し，放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また，条件から放物線の方程式を求めることができる。y 軸が軸となる放物線の概形をかくことができる。 b:軌跡の考え方を用いて，放物線の方程式を導くことができる。 c: 既知の円や放物線などの曲線を，条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		2．楕円	a:楕円が，2 つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。楕円の標準形について理解し，楕円の概形をかいたり焦点や長軸，短軸の長さを求めたりできる。焦点が y 軸上にある楕円の概形をかいたり，焦点や長軸，短軸の長さを求めたりできる。楕円が，円を拡大，縮小した曲線であることを理解している。 b: 軌跡の考え方を用いて，楕円の方程式を導くことができる。焦点が y 軸上にある楕円の方程式について，焦点が x 軸上にある楕円をもとに考察できる。条件から焦点が x 軸上にあるか y 軸上にあるか判断した上で，楕円の方程式を求めることができる。条件を満たす点の軌跡として，楕円の方程式を求めることができる。 c: 条件を満たす軌跡について，条件を変えたときに軌跡がどのように変わるか検討しようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り

		３．双曲線	a：双曲線が，2 つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。双曲線の標準形について理解し，双曲線の概形をかいたり焦点や頂点，漸近線を求めたりできる。焦点が y 軸上にある双曲線の概形をかいたり，焦点や頂点，漸近線を求めたりできる。直角双曲線の定義や方程式について理解している。 b：軌跡の考え方を用いて，双曲線の方程式を導くことができる。焦点が y 軸上にある双曲線の方程式について，焦点が x 軸上にある双曲線をもとに考察できる。条件から焦点が x 軸上にあるか y 軸上にあるか判断した上で，双曲線の方程式を求めることができる。 c：双曲線の漸近線について，曲線が限りなく近づくことを確かめようとする。中学で学んだ反比例のグラフが双曲線であることに興味をもち，双曲線の定義を満たしていることを確かめようとする。	小テスト 考査	小テスト 考査	レポート 振り返り
		４．2 次曲線の平行移動	a：曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。x，y の 2 次式を変形して，2 次曲線の概形を考えることができる。 c：x，y の 2 次式の係数によって，方程式がどのような曲線を表すか一般的に検討しようとする。	小テスト 考査		レポート 振り返り
		５．2 次曲線と直線	a：2 次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。2 次曲線の接線の方程式の一般形について理解し，接点が与えられたときに接線を求めることができる。 b：2 次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え，共有点の個数について考察できる。2 次曲線と直線の接点を連立方程式の重解と捉え，接線の方程式を求めることができる。	小テスト 考査	小テスト 考査	
		６．2 次曲線と離心率	b：離心率の条件を満たす点の軌跡として，2 次曲線の方程式を求めることができる。 c：2 次曲線を，離心率 e と 1 との大小をもとに，統一的に捉えようとする。		小テスト 考査	レポート 振り返り

3学期	第2節　媒介変数表示と極座標	7.曲線の媒介変数表示(4)	a:曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。円や楕円を媒介変数表示できる。双曲線を媒介変数表示できる。 b: 条件から点の座標を 1 つの文字で表し，それを曲線の媒介変数表示と捉えることで，その点が描く曲線を求めることができる。媒介変数表示された曲線の平行移動について，点の平行移動をもとに考察できる。円について，既に学んだ三角関数による方法以外の方法での媒介変数表示について考察できる。 c: 双曲線の媒介変数表示について，具体的に確かめようとする。サイクロイドについて，具体的な点をプロットするなどして，媒介変数表示や曲線の概形を考察しようとする。媒介変数を用いて表される様々な曲線に興味をもち，その概形などを調べようとする。	小テスト	小テスト	レポート 振り返り
		8.極座標と極方程式(5)	a: 極座標による表示について理解し，点の極座標を求めたり，極座標が与えられた点の位置を求めたりできる。点の座標について，直交座標と極座標を相互に変換できる。簡単な極方程式で表される曲線を図示することができる。簡単な曲線を極方程式で表すことができる。平面上の曲線について，x，y の方程式と極方程式を相互に変換できる。 b: 極方程式について，方程式を満たす点が存在するかどうかなどを曲線の概形と関連付けて考察できる。離心率 e についての条件から 2 次曲線の極方程式を求め，直交座標の方程式に変換するなどして考察できる。 c: 直交座標とは異なる方法で点の位置が表せることに興味をもち，それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。極方程式について，具体的に点をプロットしていくことで，どのような曲線か考察しようとする。2 次曲線の極方程式について，離心率 e と 1 との大小をもとに，統一的に捉えようとする。	小テスト	小テスト	レポート 振り返り
		9.コンピュータの利用(1)	a: 媒介変数表示された曲線や極方程式で表される曲線を，コンピュータを用いて描くことができる。 c: コンピュータを用いて，係数をいろいろ変えたリサージュ曲線を描き，その変化と係数の関係を調べようとする。	小テスト		レポート 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度